東北学院大学南津島民俗調査プロジェクト 2025 年度報告書

１．はじめに

本稿では、2025 年度の東北学院大学南津島民俗調査プロジェクトの成果と、次年度に向けての活動を記述してゆく。

本稿の構成は以下の通りである。①活動の主旨、②今年度の活動と成果、③次年度に向けての活動である。なお、①についてのみ、これまでの活動報告書との重複が見られる。というのも、このプロジェクトは継続性が求められるもので、主旨を大きく変更していないからである。

１－１．メンバーと私たちの強み

私たちは宮城県仙台市に所在する、東北学院大学に所属する学生団体である。私たちには、次の２つの強みがある。

１つ目は、専門性を活かした地域社会への貢献ができることである。プロジェクトのメンバーは文学部歴史学科の学生たちであり、とくにコア・メンバーは専門分野として地域文化を研究対象とする民俗学を学んでいる。地域文化についての高い専門性を持つからこそ、地域の人々が大切にしてこられた民俗芸能や地域文化についての深い理解が可能になり、学問の方法論をふまえた地域の復興を展望できると考える。

２つ目は、長期の貢献が可能になることである。メンバーは東北各地の出身者が多数を占める。また福島県出身者も少なくない。私たちの多くが東北各地での就職を希望している。そのため、地域との交流が学生時代に完結してしまうのではなく、将来的にも交流を続けていくなど、長期にわたる調査・交流活動が可能であると考えている。実際に、卒業後もプロジェクトにかかわり続けている OB・OG たちがあらわれはじめた。

このような強みを活かして、福島県でもとりわけ東日本大震災で被災した地域の「集落復興支援事業」に取り組もうと考え、本事業に応募し、2022 年度よりこの活動に取り組んでいる。

１－２．南津島地区との出会いと活動の狙い

本事業を通じて、双葉郡浪江町南津島地区のみなさんとの交流活動を実施することとなった。南津島は現在もなお、帰還困難区域に指定されている。そのため、かつて地区から避難した人びとは、集落を離れバラバラに住まうことを余儀なくされている。かつてのような、土地に根ざした近隣関係にもとづく集落活動が困難である状況が継続している。

また私たちは南津島にある優れた芸能について知った。それは県指定無形民俗文化財である田植踊り／神楽七芸などである。現在も南津島郷土芸術保存会が優れた芸能を継承し

ている。しかし避難先がバラバラになってしまったことにより、震災後も人びとの心の拠り所となっている民俗芸能でさえも、継続が困難な状況が現出している。

こうした状況を見聞きするにつけ、私たちの強みを活かした集落支援ができるのではないかと思うようになった。すなわち、地域文化をサポートする活動を通して、地域をエンパワーメントできるのではないかということだ。そのためにまず地域を調査し、現在まで育まれてきた歴史・伝統を担おうとする南津島郷土芸術保存会への支援活動を行ない、ささやかながら、文化を受け継いでいく活動に協力したいと考えている。

住民の大部分が土地を離れて生活せざるを得ないため、いま津島地区の地域文化は、いわば「風前の灯火」となってしまっているという。しかし、受け継がれてきた伝統の尊さ、重要性は変わらない。地域の住民の思いや考えをくみ取り、それらをつぎの世代にいかにつないでいくかを、郷土芸術保存会とともに考えていくことは、私たち民俗学を学ぶ歴史学科生の使命であると考えている。

また、私たちがサポーターとなることで、地域文化の認知度を高める効果も期待している。眠っている地域文化を復興させ、周知させることでまた次世代の担い手の発掘をすることができるのではないか。連綿と受け渡されてきたものを、また私たちが支援し、その先に届ける。その仕事に誇りと責任をもって取り組んでみたい。

2. 今年度の活動内容

1年目の2022年度は田植え踊りの継承活動に取り組んだが、新型コロナウイルスの影響により保存会自体の活動頻度が低下せざるをえなかった。2年目である2023年度にはコロナによる規制の緩和や 3 月 31 日に津島地区の帰還困難区域が一部解除されたことにより、保存会にイベント出演の依頼が殺到した。それに伴い学生側の活動も活性化し、田植踊りだけではなく、神楽・岡崎という演目の継承支援も始まった。3年目は、一部解除された津島地区をはじめ、福島県内の様々なイベントに保存会の方と共に出演させていただいた。また、東北学院大学大学博物館において本プロジェクトに関する企画展示を実施し、あわせてパンフレットの制作を行った。

4年目である今年度は、日本青年館ホールで開催された全国民俗芸能大会のほか、福島県内の様々なイベントに保存会の方と共に出演させていただいた。

今年度の主な活動を整理すると、表1のようにまとめられる。

表 1：2025 年度の活動概要

年月日	会場	参加者	主な活動内容
2025 年 6 月 22 日	二本松市民交流センター	学生 5 名	保存会の方々との神楽の練習会
2025 年 7 月 6 日	二本松市民交流センター	学生 5 名	保存会の方々との神楽の練習会
2025 年 8 月 29 日～30 日	福島県男女共生センター	学生 26 名	保存会の方々との交流会、及び芸能の合同練習会
2025 年 9 月 28 日	二本松市民交流センター	学生 20 名	「ふるさとの祭り」、「つしま肉まつり」に向けた保存会の方々との合同練習会
2025 年 10 月 19 日	つしま活性化センター	学生 25 名	「つしま肉まつり」にて保存会の方々とともに田植踊り、神楽の披露
2025 年 10 月 26 日	道の駅なみえ	学生 21 名	「ふるさとの祭り」にて保存会の方々とともに田植踊りの披露
2025 年 11 月 16 日	東北学院大学	学生 26 名	一般の方、学生へ向けた公開講演会「民俗芸能をつなぐ－南津島田植踊りをめぐる保存会と学生たちの試み－」を開催
2025 年 11 月 22 日	日本青年館ホール	学生 26 名	「全国民俗芸能大会」にて保存会の方々とともに田植踊り・神楽の披露
2026 年 1 月 8 日	名取市文化会館	学生 22 名	「つしま冬まつり」に向けた保存

			会の方々との合同練習会
2026 年 1 月 17 日	つしま活性化センター	学生 24 名	「つしま冬まつり」にて保存会の方々とともに田植踊り、神楽の披露
2026 年 2 月 10 日	福島県庁	学生 2 名	福島県庁を訪問し、知事に「大学生と集落の協働による地域活性化事業」による活動成果を報告
2026 年 2 月 11 日	コラッセふくしま	学生 3 名	福島県地域振興課の成果報告会に参加し、活動の内容を報告

2－1.　具体的な活動内容

〈夏合宿〉

参加者の多くが 1 から南津島の芸能を学ぶことになった夏合宿は 2025 年 8 月 29 日～31 日の 3 日間にわたり、福島県男女共生センターにて行われた。学生は保存会の方々に田植踊り及び神楽・岡崎を教えていただきながら練習に励んだ。また、着物の着付けについても教えていただき、学んだことは写真やメモで記録をした。また、懸田弘訓氏と本学大学院生 3 名による南津島をはじめとする福島県内の民俗芸能に関する講演を行い、保存会と学生が民俗芸能そのものや継承の意義について理解を深める機会となった。

踊りを教わっている様子

本学大学院生による講話

〈ふるさとの祭り・つしま肉祭り・つしま冬まつり〉

ふるさとの祭り

つしま肉祭り

つしま冬まつり

私たちの活動にとって重要な、保存会の公演をサポートする事業がある。今年度は、「ふるさとの祭り」「肉祭り」「つしま冬まつり」のイベントで保存会と共演した。

「ふるさとの祭り」は、田植踊での出演となり、鍬頭１名・太夫１名・笛３名・種下ろし２名・太鼓２名・早乙女５名・ささら２名の計 15 名が出演した。

「肉祭り」は、神楽・田植踊と２つの演目での出演となった。神楽では、前被り １ 名・後被り１名・笛３名・太夫１名・鉦１名・ひょっとこ１名の計８名が出演した。田植踊では、太夫１名・笛３名・鍬頭１名・ささら２名・種下ろし２名・太鼓２名・早乙女５名の計 11 名が出演した。

「つしま冬まつり」は、学生中心で構成され、神楽・田植踊と２つの演目での出演となった。神楽では、前被り１名・後被り１名・笛３名・鉦１名・ひょっとこ１名の計７名が出演した。田植踊では、太夫１名・笛３名・鍬頭１名・ささら ２ 名・種下ろし２名・太鼓 ２ 名・早乙女７名の計 18 名が出演した。

ひとつの公演を成功させるには、着付けや道具運び・受け渡しなどを行なう裏方となるメンバーも必要になる。両公演でもサポートにまわる学生たちの献身的な協力もあった。

〈公開講演会〉

11 月 16 日には、公開講演会「民俗芸能をつなぐ―南津島の田植踊りをめぐる保存会と学生たちの試み」を東北学院大学五橋キャンパス押川記念ホールで開催した。

伴走支援活動のこれまでの活動や南津島の芸能の魅力について発表、実際に田植え踊、神楽・岡崎を披露した。

保存会と学生ら

公演中の様子

〈全国民俗芸能大会〉

11 月 22 日に日本青年館（東京都）で開催された第 72 回全国民俗芸能大会に出演した。全国民俗芸能大会は、日本青年館が建設された 1925（大正 14）年、開館を記念し開催された「郷土舞踊と民謡の会」に由来する歴史のある民俗芸能大会である。

第 72 回大会には全国から推薦された 4 団体が出演することができる。その一つに南津島郷土芸術保存会が推薦され、学生が保存会とともに出演することとなった。この大会は、基本的には 1 度出演した団体は参加することはないそうである。しかし、今回の大会では、保存会が震災被害を受けてなお活動を続けていること、学生たちと協働しながら新たな継承に取り組んでいることなどが評価され、２度目の出演をすることができた。当日は保存会と学生が田植踊りと神楽・岡崎を披露した。

神楽では、前被り １ 名・後被り 1 名・笛 3 名・太夫 1 名・鉦 1 名・ひょっとこ 1 名の計 8 名が出演した。田植踊では、太夫 1 名・笛 3 名・鍬頭 1 名・ささら 2 名・種下ろし 2 名・太鼓 2 名・早乙女 7 名の計 18 名が出演した。

表彰を受ける保存会会長

公演中の様子

三瓶専次郎会長ほか、保存会のみなさまから「前回出演した際は、自分たちの集落の支えがあって参加することができた。今回は、それに加えて、学生たちのサポートがあって、出演できた」。「震災後、もっとも素晴らしい踊りだった」などという肯定的な評価を得ることが出来た。

3. 次年度に向けて

次年度は、大きく分けて 3 つの活動を軸に活動していきたい。1 点は、保存会が必要とする支援活動を継続して行うことである。これまでのように、イベントの出演など保存会のサポート活動をしていきたい。

2 点は、これまでの活動の記録を整理し、学生間（先輩から後輩へ）での継承活動を行うことである。着物の着付け方や踊り方など、保存会の方々から学んだことを形に残すことを考えている。また、より長く芸能を繋いでいくために、先輩から後輩への継承にも力を入れていきたい。

3 点は、新しい活動としてこれまで取り組んできた成果を学術書にまとめることと、新しい継承を試みる外部の団体と交流を行うことである。新しい継承のかたちを創り上げている外部団体と交流することで、より芸能の継承に対して知見を深め、課題にアプローチしていきたい。